

未来を選択する力を身に付けるテキスト

ワークショップの進め方（50 分用）

★ワークショップに必要な備品・消耗品費

- 付箋 3 色（できれば「赤」、「黄色」、「緑」）、 細ペン（黒）、 模造紙
- ホワイトボード、呼び鈴等、 タイムウォッチ

★ワークショップのグループ

- 1 グループ、おおよそ 4-5 名が望ましいです。
- 男女ともに参加する場合は、男女混合になるようにチームを分けてください。
- 多様な参加者（年齢、住んでいる地域等）で実施する場合は、できるだけ、同じ年齢層、住んでいる地域で重ならないようにチームを分けてください。

★事前学習

- ワークショップを実施する約 1 週間前に、事前の準備の指示（宿題）を出してください。
- 宿題は、各テキストに書かれているキーワードに関連する新聞記事の「切り抜き」をノートに貼り付け、重要な箇所に線を引くなどの作業の他、関連するテレビやラジオ、インターネットニュースを見聞きするとともに、自宅や友人と、キーワードに関する話をするように指示をしてください。

★ワークショップの「ゴール」

- 50 分間用のワークショップの「ゴール」は、各テキストのテーマに関連する「現代社会の問題」について、主権者（有権者）として、問題に関心を持ち、データを読み解きながら、問題を発見する力を身に付けることです。
- また、ワークショップの協働作業を通じて、①批判的思考力、②チームとして「答え」を導き出す力を養成することです。

★事後学習

- 必ず「事後学習」を通じて、自分の考えやワークショップの経験を内省する機会を提供してください。
- 評価については、付属の「ルーブリック」を活用し、自己評価及び第三者評価を行い、評価結果を受講生にフィードバックしてください。なお、受講者同士の評価も有効です。

時間	
0:00 - 05:00	※グループごとに着席、ワークショップの準備、事前学習課題の提出等
05:00 - 10:00	アイスブレイク 「みんなで話してみよう」のテーマについて、相互に意見交換を行う。1名の持ち時間を1分として、時間を厳守する。ファシリテーターは、1分ごとに呼び鈴を鳴らす。
10:00- 13:00	データを読み解く① 各々で、テキストのデータを読み込み、「どのような問題があるか」が「どこに」あるのかなどを黙考する。お互いに意見交換は行わない。できるだけ、誰もが見つけられない問題を発見するように促す。ファシリテーターは、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
13:00- 16:00	付箋にメモする 気が付いたことを付箋1枚につき1つずつ書き出していく。黄色の付箋紙には、「良いと思ったこと」、緑の付箋紙には「問題」と思ったこと、ピンクの付箋紙には、「これからやった方がいい」と思ったことを書いていき、各人が少なくとも6枚作る。(多い分にはかまわない) ファシリテーターは、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
16:00- 20:00	意見をまとめる 付箋を模造紙に貼り、色ごとに、近い意見をまとめていく。そして、その集合に、共通となるタイトルを付けていく。その模造紙を見ながら、自分たちのチームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で説明できるようにまとめる。ファシリテーターは、3分経過したら、呼び鈴を1回、4分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
20:00- 25:00	発表 各チームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で発表する。1チーム1分とし、時間を厳守する。ファシリテーターは、45秒経過したら、呼び鈴を1回、1分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
25:00- 30:00	データを読み解く② 各々で、テキストのデータを読み込み、「どのような問題があるか」が「どこに」あるのかなどを黙考する。お互いに意見交換は行わない。できるだけ、誰もが見つけられない問題を発見するように促す。

	ファシリテーターは、3分経過したら、呼び鈴を1回、5分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
30:00- 33:00	<p>付箋にメモする</p> <p>気が付いたことを付箋1枚につき1つずつ書き出していく。</p> <p>黄色の付箋紙には、「良いと思ったこと」、緑の付箋紙には「問題」と思ったこと、ピンクの付箋紙には、「これからやった方がいい」と思ったことを書いていき、各人が少なくとも6枚作る。(多い分にはかまわない) ファシリテーターは、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
33:00- 37:00	<p>意見をまとめる</p> <p>付箋を模造紙に貼り、色ごとに、近い意見をまとめていく。そして、その集合に、共通となるタイトルを付けていく。その模造紙を見ながら、自分たちのチームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で説明できるようにまとめる。ファシリテーターは、3分経過したら、呼び鈴を1回、4分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
37:00- 42:00	<p>発表</p> <p>各チームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で発表する。1チーム1分とし、時間を厳守する。ファシリテーターは、45秒経過したら、呼び鈴を1回、1分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
42:00- 47:00	<p>講評</p> <p>教員等から、ワークショップに対する講評を行う。講評のポイントとしては、問題を的確に把握することができていたか、などの視点で、「良いところ探し」を行っていく。</p>
47:00- 50:00	<p>事後学習の提示</p> <p>事後学習用のレポート内容の指示を行う。また「ループリック」を配布し、自己評価を行うことの意味について説明する。さらに選挙期日等の紹介なども行う。</p>